

一体何が起こったの？

神戸 榮一

私の住んでいる町では文化の日に町民レクレーション大会が開催される。今年で三十七回目だ。

数年前には小学生が数人しかいない年もあったが、ここ最近、子供連れの若い女性の参加があり、どこにこんな子供や女性が住んでいるのだろうと思うほど多く賑やかになってきた。しかし中心勢力は老人会で会員は百人を超えて、一家に一人以上となっている。

レクレーション大会が始まった当初はみんなも若く、徒競走や綱引き、樽転がしや、ムカデ競争といった体力勝負の競技が多かったが、高齢化時代になり、じゃんけん大会やクイズ中心の軽ゲームとなつている。大会のメインは、焼きそばとおでんの食事にビンゴゲームへと変化してきている。

焼きそば用の道具はドラム缶を縦半分に分けたコンロと五十センチ角の鉄板。それより一回り大きい金網が各隣保に準備されている。これを使って事前に聞いた注文数のそば、肉、野菜、ソース等が配つてある。それをみんなで焼くのだ。

おでんは前日から婦人部がじっくり煮込み、朝から温めておいたもので、筋肉もトロトロになっている。

午前中のゲームが終わり食事の準備が始まった十一時すぎ、救急車のサイレンが聞こえてきた。どこへ行くのかなと思つていたら、なんと会場へ来たではないか、一体何が起こつたのと見回すと、A子さんが倒れたという。

A子さんは六十七歳、少し家が離れているので親しく話をしたことはなかったが、どこか体が悪いと言つた噂も聞い

たことがなかった。付近にいた人に聞くと急に倒れたという。

ストレッチャーに乗せられて救急車に収容されるとき、彼女はみんなに手を振つていた。元気なんだ。焼きそばもまだ準備中だし、おでんは昨日からよく煮込んであるし食中毒ではなさそうだ。朝から暖かい日だったのが気温は二十数度だろう。熱射病になるような状況ではない。

救急車はなかなか発車しない。どうしたのかなと思つてみると、今日は三連休の初日の祝日だから、受け入れ病院が見つかからないのだろうと言う声が聞こえた。重症ではないからいいものの、救急隊員の方も大変なことだ。

本格的に食事の準備が始まった。当初は焼きそばとおでんだけだったが、少しずつ手料理が加わるようになり、海苔巻きや、おにぎり、天むすが並ぶようになってきた。焼肉やさつまいもを焼いているところもある。自宅で採れた柿や、お菓子に温かいコーヒーもある。ビールも町から沢山出ているので、ご機嫌になっている人も多い。

宴たけなわとなつた頃、また救急車のサイレンが聞こえてきて会場に来た。今度はB君が気分が悪いと救急車を呼んだとのこと。

B君は私より一歳年下だが、元気にゴルフに行つていふし、ぶどう栽培にも頑張つている。一体どうしたんだ。車の中で休んでいたB君は隊員に付き添われ救急車の人になった。

レクレーション大会は長い歴史を持つているがこんなことは初めてだ。本当に一体何が起こつたのと考えさせられる一日だった。

平成二十八年二月